

お弁当で比べてみよう

自給率の高い頃(1973年頃)の幕の内弁当



【ねらい】

日本における食料自給率の急激な低下の原因として、食生活の変化が大きく影響していることを理解させるとともに、その結果として、大量の輸入食材の長距離輸送により、大量の化石燃料が使用されていること、ひいては二酸化炭素の排出や地球の気温上昇に繋がっていることを示すことにより、身近な食生活における地球環境負荷の低減のための取り組みへの理解を深めます。

お弁当で比べてみよう

自給率の高い頃(1973年頃)の幕の内弁当



【資料解説】

この写真は、1973年頃の幕の内弁当の写真です。資料16の写真（現在の幕の内弁当）と比較すると、現在の弁当は昔のものに比べ、ごはんの量が減った一方で、輸入の小麦製品であるスパゲッティが加わったほか、おかずの量が増え、また油脂の使用量が増えていることが分かります。また、弁当の材料の産地比較は、資料16の裏面のとおりであり、1973年頃はほとんど国産であったおかずの材料が、現在では外国産に替わっていることも分かります。

資料15と16の2枚の写真から、日本の食料自給率が急激に低下した理由を読み取らせることができます。

日本における食料自給率の低下は、都市化や農業離れて生産が減ったというよりはむしろ戦後の食生活の急激な変化が大きく影響しています。日本では昔から主食(ごはん)を中心とした食生活が行われてきましたが、戦後、主食がパンやめん類等多様化したほか、副食(おかず)の割合が増え、中でも特に畜産物(肉、乳製品、卵など)や油脂の消費が増えました。つまり、自給率の高いごはん(米)の消費が減り、自給率の低いパンやめん類、おかずの消費が増えたことにより、食料全体の自給率が低下してきたといえます。

また、特に近年、惣菜、冷凍食品といった調理・加工された食品の割合が増え、外食をする機会も増えました。こうした中で、これまでの国内の生産では、食品加工メーカーや外食店が求める要望に十分に答えられず、輸入に頼らざるを得なかったという現状があります。

撮影協力：株式会社 高松駅弁

【参考】

食品ロスの問題

お弁当や外食店、家庭で大量に出る食べ残し、いわゆる食品ロスについても大きな問題です。

大量の食品が食べられずに廃棄され、結果として必要以上の食料が輸入されていることになっているとすれば、このことが食料自給率を引き下げる要因の一つにもなります。

【関連する各教科の学習内容】

	中3	中4	中5	中6	中7	中8	中9
社会			我が国の産業 水産業	世界の中心 日本	【地理】 ○世界の中心と日本の地理的特 色(気候・地形・産業と内陸)		【公民】 ○よりよい社会を目指して
理科							○自然環境の保全と科学技術の活用
技術・家庭(道徳)					○食料の生産環境と生産条件 ○食料の生産に関する技術の調査と評価・活用		
家庭 技術・家庭(家庭)			○日本の食料と食料の確保 ○環境に配慮した食料の工夫		○世界の食料と地域の食文化 ○家庭生活と環境		